

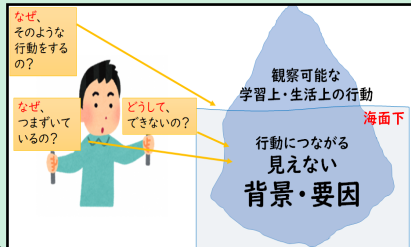
特別支援教育コーナー 「冰山モデル」を活用した個別の指導計画の充実

園や通常の学級において、教育的支援を必要とする幼児児童生徒の学校生活全般における具体的な指導目標や内容、支援や配慮事項などを記載した「個別の指導計画」の作成が進んでいます。学習上または生活上の困難は一人一人異なるため、実態を的確に把握することが、「個別の指導計画」の効果的な活用につながります。ここでは「冰山モデル」を活用して実態を把握し、支援を考える方法を紹介します。

「冰山モデル」を活用して実態を把握し、行動の背景・要因に着目して支援を考える

冰山モデルとは？

課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その海面下にある要因に着目して実態や支援を考える方法



なぜ、そのような行動をするのか、その背景にある要因に視点をあてて支援を考えることが大切です。

- ・校内の関係者から情報を収集するなど、多面的・多角的に情報を整理することで、実態をよりの確に把握することができます。
- ・本人・保護者の了承の上、心理学的な立場、医学的な立場からの情報や、利用する福祉施設等からの情報を収集することも重要です。

＜例えば＞

背景・要因に「聞こえ方」の問題があったケース

- ・指示が伝わらない。
- ・聞き漏らしが多い。
- ・注意を繰り返しても改善されない。

なぜ？

- ・校内で情報収集すると、以前から慢性の中耳炎があることが判明。
- ・受診できていないことも分かり、保護者に受診をお願いした。
- ・水の中にいるような状態で聞こえていることが分かった。

困っていることの実態を「冰山モデル」の視点で見る

＜例えば＞ 困っていることの実態（低学年児童）

- ◇生活リズムが不規則になりがちで、欠席や遅刻が多い。
- ◇思うようにいかないと、衝動的に手を出したり物を投げたりしてしまう。

背景にある要因を考える



苦手さ

- ・覚醒と睡眠のリズムが不規則になりやすい。
- ・注意や集中の持続が困難で、自分のことを省みるが苦手。
- ・自他の気持ちや見聞きした状況を言葉でうまく表現できない。

長所・よさ

- ・することが分かり、見通しがもてると最後まで取り組もうとする。
- ・興味・関心があると集中して取り組める。

本人に関すること

長所やよさ、興味・関心、すでにできていることなどを指導・支援に生かす視点が必要。

学級環境

- ・相手を気遣って行動できる子どもが少ない。
- ・子ども同士のトラブルが多い。

家庭環境（保護者の状況）

- ・小さな兄弟がおり、本見だけに費やす時間を確保しにくい。
- ・具体的な声のかけ方やタイミングが分からず、困っている。

周囲の環境に関すること

保護者の状況を考慮しながら連携を図ることや、担任以外の教職員とも関わり方を共有しておくことが大切。

実際の「個別の指導計画」(例)

【長期目標】

- ◇休まずに登校する。

《担任の思い》

- ・学校にリズムよく登校してほしい。
- ・保護者と一緒に取り組みたい。
- ・本児の自覚や学校への気持ちを高めることはできないか。

- ◇思うようにならない気持ちを言葉で伝えることができる。

《担任の思い》

- ・自分の思いを受け止め、理解してもらえたという心地よさを感じてほしい。
- ・他の先生にも実態を知ってもらい、同じ関わりをしてほしい。

【短期目標】

- ◇遅刻してもよいから、休まずに学校へ来る。(4月)
- ◇夜、9時半には寝る。(5月)
- ◇朝、6時半に起きる。(6月)
※家の人と登校してもよい。
- ◇みんなと一緒に登校する。(7月)

月ごとに目標を設定。本人、保護者とも目標や取組を話し合い、共有。

- ◇表現できない気持ちの伝え方を知る。

どう表現してよいか分からない。まずは、伝え方を知ることから。

【主な具体的な支援】

《担任の思い》

- ・保護者と連携し、双方向からサポートしたい。
- ・本人にもめあてをもって取り組んでほしい。

- ◇「キャラクターがんばり通帳」にコインを貯める。



- ・興味のあるキャラクターを活用。がんばりが可視化され、保護者からの称賛の声もかけられる。

- ・1コイン、2コイン、スペシャルコインと、内容に応じてコインシールをゲット。
- ・本人と確認した目標をコインゲットの項目に入れ、放課後、通帳に貼る。

- ◇気持ちを受け止め、うまく言葉にできない場合は、担任が言語化する。(「腹が立った。」「嫌だった。」など)

どこでも同じ対応となるよう他の先生とも共有。

紹介した実践は、保護者の状況を考慮し、見通しがもてるとがんばれる本人のよさを生かしたものです。その後、保護者の送迎ではあるものの決まった時間に登校できるようになったこと、トラブルの際に自分の気持ちを表現できるようになってきたことを担任の先生からうかがいました。「個別の指導計画」を効果的に活用するため、幼児児童生徒の変容や指導・支援の在り方を「冰山モデル」の視点で整理・見直し、一人一人の実態に応じた「個別の指導計画」を作成していきましょう。